



東北大学

東北アジア研究を

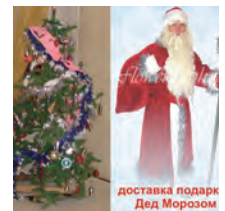
東北大学大学院 環境科学研究科

先端環境創成学専攻

東北アジア地域社会論講座・東北アジア地域文化論講座

学

んでみませんか



2021 年度案内



北アジア研究センターは研究所型組織ですが、環境科学研究科に協力講座を開き、災害科学国際研究所とも連携しながら、大学院教育に関わっています。社会人類学、歴史学、言語学、環境政策論のアプローチによる地域研究と環境研究を学び、修士・博士の学位を取得することができます。環境科学研究科が提供する文理の垣根を越えた授業を学びながら、大学院生としての研究室活動は、指導教員の所属である東北アジア研究センターあるいは災害科学国際研究所で行うことになります。ロシア・モンゴル・中国・日本に関わる世界最先端の研究者がつどう環境のなかで、自分の研究を行いたい大学院生の挑戦を受け入れています。

大学院生の学位論文テーマ

●博士論文

- ① 清代モンゴル境界考（2020 年）
- ② 禁牧政策下における内モンゴルの農牧複合—ホルチン地域における動物と植物資源利用に着目して（2019 年）
- ③ 17 世紀前半におけるモンゴル語檔案文書の言語学的研究（2017 年）
- ④ 18 世紀前半の蒙文本版仏典におけるモンゴル語の言語学的研究—蒙文『賢愚經』を事例として（2017 年）
- ⑤ モンゴル牧畜社会における牧畜戦略の多様性と変化に関する研究（2017 年）
- ⑥ 祖先と資源の民族誌—中国雲南省を中心とするハニ＝アカ族の歴史人類学的研究（2015 年）
- ⑦ 清代内モンゴル・ハラチン地域の社会構造に関する研究（2015 年）
- ⑧ 清代後期における蒙漢混住地域の社会構造研究—内モンゴル・ハラチン地域を事例として（2015 年）
- ⑨ 環境問題に対する態度、行動と社会的文脈：国際社会調査プログラムによる調査データの分析（2015 年）
- ⑩ 現代中国の移民母村の文化人類学的研究—個人史・人生儀礼・神祇祭祀から見る持続と変容（2014 年）
- ⑪ 貿易と環境—経済構造、国際サプライチェーン、環境影響に関する研究（2014 年）

●修士論文

- ① ロシア連邦の先住民権利運動における集権的組織についての人類学的研究（2020 年）
- ② 地域交通ネットワークにおけるコミュニティサイクルの役割—仙台市ダテバイクを事例として（2020 年）
- ③ トナカイ・コリヤークの人・動物関係—儀礼空間とその変化に着目して（2019 年）
- ④ 政策一貫性の評価—インドネシアの泥炭地保護および管理に関する研究（2019 年）
- ⑤ 現代日本における市民参加型森林管理をめぐる文化人類学的研究—仙台市森林ボランティア団体を事例として（2018 年）
- ⑥ ベトナムにおける風力発電事業に関わる資本費削減ポテンシャルの研究—中国の経験から（2018 年）
- ⑦ 政策アナウンスメントが CO₂ 排出権価格に与える影響—北京排出量取引市場に関するケーススタディ（2018 年）
- ⑧ 「一時滞在者」の社会的ネットワークに関する人類学的研究—在日中国人技能実習生を例として（2017 年）
- ⑨ 中国における気候変動政策が中国の鉄鋼産業に与える影響（2016 年）
- ⑩ 競い合う記憶と記録のマテリアリティ—現代日本における家系図をめぐる人類学的考察（2015 年）
- ⑪ 定住牧畜民の家畜飼育技術と生業多様化に関わる人類学的研究—内モンゴル・ホルチン左翼後旗の事例から（2015 年）
- ⑫ 『蒙文詮訳』におけるモンゴル語の正音法の研究（2015 年）
- ⑬ 『シラ・トージ』におけるモンゴル語の研究（2015 年）
- ⑭ 20 世紀初めの東部内モンゴルにおける農業生産と長春（2014 年）
- ⑮ 『アサラクチ史』におけるモンゴル語の研究（2014 年）

東北アジア地域社会論講座

◎ 多元社会環境史論分野



瀬川昌久 教授
(文化人類学)

俯瞰する立場からの学術的言説が、いかにぶれのない明瞭な像を提示しようとも、人類学者は個々の水路のいくつかが辛うじてつながり、あるものが途中で途絶えかけていることを知っている。理論と社会的現実の間を實際に自分の脚で往き来し、そこに横たわる根本的なあやふやさと危うさを十全に目視できるのは、おそらく人類学者だけなのだ。



上野稔弘 准教授
(中国近現代史、民族問題研究)

東北アジアを主たる対象として、20 世紀以降の国民国家形成・成熟過程における民族など社会諸集団の統合と軌轢を分析し、その共生のあり方を探るべく研究を行っています。写真は中国近現代史料を所蔵する国史館（台湾）。



◎ 文化生態保全学分野



高倉浩樹 教授
(社会人類学、北極研究)

気候変動、災害復興など自然の大きな変化にどう社会は対応するのか、その際の文化の役割を研究しながら、映像を含む記録方法の可能性を模索しています。ロシア・シベリア・北方研究でのフィールドワークでは寒さのなかの荘厳な自然の美しさを感じながら民族文化を学んでいきます。現地の人々と対話しながら、わかったと思う瞬間楽しいです。写真は東シベリア・オイミヤコンに暮らすエヴェン人のトナカイ橇による移動光景。



Sébastien P. Boret
ボレー・セバスチャン 准教授
(社会人類学、災害科学)

文化・社会人類学者としては災害の時に含めて死者に巡って生死の儀式、宗教、記憶などについて研究・教育しています。そのアクティビティの幸福・福祉的に役割について分析しています。フィールドワークはインドネシア、フランス、日本などで行っています。写真は犠牲者のために建てられた「寄り添いお地蔵さん、2013 年 9 月 6 日、宮城県名取市関上地区。



教員紹介

東北アジア地域社会論講座

● 文化生態保全学分野



Alyne DELANEY
デレーニ・アリーニ 准教授
(文化人類学、日本研究)

人と自然、特に沿岸域の相互作用に興味があります。これには、社会的組織や資源管理（コモンズ）などのトピックの調査が含まれます。また、変化（気候変動や災害など）に直面した場合の回復力と社会的持続可能性についても調査します。民族誌学や視覚的手法に興味を持ち、日本、ヨーロッパ、グリーンランド、アフリカなど、世界中でフィールドワークを楽しんでいます。写真は、アサリ水揚げ、代ヶ崎浜、七ヶ浜町。2013年6月。



● 歴史環境学分野



佐藤大介 准教授
(日本史、史料保存学)

日本の地域社会に膨大に残された古文書史料を保全し、地域の歴史を復元するとともに、それらの成果や、歴史資料の保存それ自体を通じた社会との関わり方について、実践を通じて研究している。



東北アジア地域社会論講座

● 環境科学・政策学分野



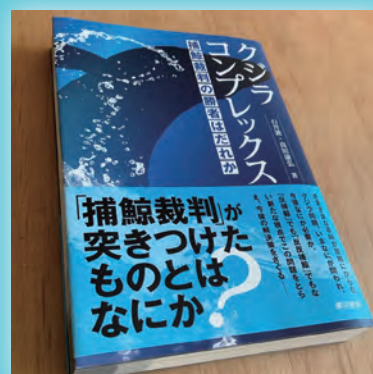
明日香壽川 教授
(環境経済・政策学、エネルギー・環境問題)

地球環境問題、たとえば地球温暖化問題を解決するための道筋を、経済学、政治学、社会学、倫理学、哲学の側面から考えています。技術も大事なので工学的な考察もします。世界も日本も、社会のシステム・チェンジは可能だと考えていますし、そのために努力するのが仕事だと思っています。



石井 敦 准教授
(国際関係論、科学技術社会学)

鵜呑みにしていい科学や常識は一つもありません。いったい科学や常識はどうやって「創られる」のでしょうか？この根本的な問いが、新型コロナウイルスや気候変動などのリスクを抱える社会を理解し、生き抜くために必要不可欠なものだと思っています。この問いに答えるための営みは、楽なことばかりではないですが、知的な刺激に満ち満ちています。



東北アジア地域文化論講座

● 内陸アジア地域論分野



岡 洋樹 教授
(東洋史学、モンゴル史)

内陸アジアは、遊牧やオアシス農耕・商業、森林の狩猟など、多様な文化が展開し、ユーラシアの歴史上大きな役割を果たしました。本分野では、歴史学の立場から、内陸アジアの社会・政治・文化に関わるさまざまな問題を研究します。



● 地域文化環境学研究分野



柳田 賢二 准教授
(ロシア語学、社会言語学)

言語においては、ある言語の母語話者にとって「して当然」の区別が、他の言語の話者にとっては「何を基準に区別しているのか不明。どこが違うのか分からない」ということがいくつでもあります。ところが他方、2言語以上を日常的に使い分ける多言語社会は地球上で少しも珍しくなく、むしろ普通なのです。多言語社会を長年観察していると、そうした社会での言語接触が、どのように人々の母語に影響を及ぼすかが見えてきます。



写真は、イコンが挟まれた冷戦期ソ連軍の軍務手帳（ウズベキスタンの個人蔵）（注：個人特定情報削除済み）。

受験案内

環境科学研究科では6つの入試群があり、私たちは「人文・社会科学系群」に関わっています。受験を希望する方はまず教員に直接コンタクトしてみてください。入試科目は外国語、専門試験、口述試験で行われます。社会人大学院生のための長期履修制度もあります。学内からはもちろん、東北大学以外からの進学希望者、高等専門学校専攻科からの意欲ある入学者も積極的に受け入れています。

専攻とコース

東北アジア地域社会論講座、東北アジア地域文化論講座の教員は、先端環境創成学専攻に属しています。私たちが指導する大学院生は、この中にある文化環境学コースで用意されたプログラムで修士研究・博士研究を行うことになります。学際性を重視する研究科なので理系の授業や他の研究科の授業も履修することができます。

問合わせ

●入試などについて

東北大学大学院環境科学研究科教務係 (kankyo.kyomu@grp.tohoku.ac.jp)

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 TEL: 022-752-2235

<http://www.kankyo.tohoku.ac.jp/index.html>

●講座の教員については

東北大学東北アジア研究センター 〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 TEL: 022-795-6009 <http://www.cneas.tohoku.ac.jp>

東北大学災害科学国際研究所 〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 TEL: 022-752-2011 <https://irides.tohoku.ac.jp>

入試情報は
こちら！

